

# 第 1 回 DSIA アカデミー開催報告書

2015 年度 DSIA 事業

2016 年

一般社団法人 DSIA

東京都中央区築地 2-8-1  
築地永谷タウンプラザ 305 号室

## 第 1 回 DSIA アカデミーを「ソーシャルビジネス“進化”アカデミー」と題して以下の通り開催しました。

- テーマ 「ビジネスパーソンは、どのように社会に変化をもたらせるのか？」  
～部署／組織／セクターを超えた仲間で Social Innovation を起こすワークショップ～
- 開催時期 2015 年 12 月～2016 年 5 月 【全 6 日、土曜日午後開催】
- 主催、共催 主催：一般社団法人 DSIA(Durable Social Innovation Alliance)、共催：株式会社イトーキ・オフィス総合研究所、協力：大日本印刷株式会社 ソーシャルイノベーション研究所
- 趣旨 社会課題を解決するためには、セクターを超えて多様な関係者が連携することが必須だと考えます。その際、様々な点でコラボレーション／協働の難しさに直面します。アカデミーを通じて、多様な経験をもった人々が集い協働しながら社会課題に向き合い、変化を起こす可能性を考える講座及びワークショップを開催しました。
- 参加者 合計 70 名（単発参加を含む）、  
参加層は、企業に所属するビジネスパーソンを中心に、事業主／起業家、公務員、その他看護師等専門職。



### 添付

- 1、案内文
- 2、講師陣
- 3、初回シンポ議事録概要

# ソーシャルビジネス“進化”アカデミー

「ビジネスパーソンは、どのように社会に変化をもたらせるのか？」

～部署／組織／セクターを超えた仲間で **Social Innovation** を起こすワークショップ～

2015年12月～2016年5月【全6回開催】

ビジネスは社会課題解決のアクターになりえるのではないかと、社会課題解決を通じて市場経済にも変化を起こせるのではないかと、そんな思いをもった人々に投げかけるアジェンダは、「ビジネスパーソンは、どのように社会に変化をもたらせるのか？」です。ソーシャルビジネスは、経済の変化、ライフスタイルの変化から生じた課題に新たな価値を創造することで解決していく手法です。ビジネス機会があるものの、まだビジネスモデルが模索されている段階といえます。

ソーシャルビジネスを「進化」させるためには、特定の組織や一つのセクターを超えて、他の組織や他のセクターと共に、共創していく力が求められます。つまり、どのようにつなぐのかをデザインし、実行するための創造的な思考と（ソーシャル）ビジネススキルを有していなければならないでしょう。そこには、新たな仕事の進め方や働き方が必要となります。

そこで、本プログラムは、今年度、「地域におけるイノベーション」を共通テーマに取り上げて、様々な分野の専門家がファシリテーターとして、対話や共同作業を中心としたワークショップ・プログラムを進行します。地域におけるイノベーションは、まさに

“個の力はあるのに集団になると集合知を発揮できない”、

“同じ言語でも意味合いが違って相互理解が深まらない”、といった

異なる価値観をもった利害関係者が存在する環境下で、

新たな関係を生みだし、持続可能なアライアンスを構築していくことが必要だからです。

本プログラムを通じて、進取の精神をもった人々の組織／セクターを超えたネットワークの場となることも意図しています。一社で解決しない課題に取り組む際の、そして、ビジネス機会を探る際の仲間を探しませんか。

主催：一般社団法人 DSIA(Durable Social Innovation Alliance)

共催：株式会社イトーキ・オフィス総合研究所

協力：大日本印刷株式会社 ソーシャルイノベーション研究所

**開催日** 2015年12月12日、2016年1月16日、2月13日、3月12日、4月16日、5月14日

初回 13時半～17時半 2回～6回：いずれも土曜日 13時半～17時（13時開場）

**会場** イトーキ東京イノベーションセンター-SYNQA (<http://www.synqa.jp/>)

**参加費** 2万円（6日間全体通しの参加費と、初日と最終日の交流会費を含みます）

\* なお、単発参加も可能です。5千円／回、交流会ご参加の場合、会費は別途必要となります。

\* 最終回のみ参加の聴講者：千円、交流会ご参加の場合、会費は別途必要となります。

**定員** 先着 40名程度

30代の若手から初期中間管理職世代をメインターゲットとします。起業家のご参加も歓迎します。

**申込方法** SYNQA [申込フォーム](#)からお申込みいただき、お振込みください。領収書は初回、会場にてお渡します。

**振込先** 三菱東京UFJ銀行神保町支店 普通 0078254 一般社団法人 DSIA（イッパンシャダンハウジンディエスアイエー）

**問合せ先** [info@dsia.or.jp](mailto:info@dsia.or.jp) 一般社団法人 DSIA 藤村、服部

進化アカデミーは、「Social Innovation」の実践を意図して開発されたプログラムです。

ソーシャルイノベーションに必要なスキルや資質の獲得あるいは向上、特に、“**連携と協力の体制を柔軟に築き、価値を共創していく力**”の向上を図ります。

### <進化アカデミー3つのメリット>

- ① 検討したビジネスアイデアの展開フィールドがある  
最終日の発表会は、具体的なフィールドに対する提案を行います。その御題は、具体的な案件が提供され、リアルに展開するフィールドの可能性をご用意しました。
- ② ソーシャルイノベーションのメソッドが学べる  
今回、全体を通して取り組むテーマは「地域イノベーション」です。ここで展開されることは、文化の異なる人々との協創／協働作業です。いかにこの関係を構築できるのかが重要な鍵を握ります。その環境への体感、自らの業務や新規事業提案においても、社内外での理解を得る手法に応用することができるものです。
- ③ 活動の場として SYNQA オフィスを使用できる  
アカデミーで出会った人々との協働作業、対話に SYNQA が活用できます。皆様の新たな挑戦を後押しする場となることを期待しています。

### <ワークショップの概要>

プログラム全体の流れは、実際に地域イノベーションを推進する際に生じる問題意識や論点と同様の流れで進めます。自らのコミットメントを想定して、「あなたならどのようにしますか？」を話し合い、アライアンスを体感していきます。

1日に、2コマのプログラムを開講します。基本的な進行スタイルは、問題提起のための事例を解説し、その後、具体的な問いに対してグループ討論を行います。前半3日間は、議論するチームメンバーが変わります。後半は、最終回の発表チームで議論を進めます。最終回は、特定化したテーマに基づいて、実在の地域を選ぶことによって現実的な、かつ、持続可能性を考慮したビジネスアイデアを発表します。

### <初日、トークセッションのタイムスケジュール>

- 13：30～13：35（5分） ご挨拶（全体説明）
- 13：35～14：30（55分） 基調鼎談（ソーシャルイノベーションとは何か）
- 14：30～14：45（15分） 休憩
- 14：45～16：15（90分） 「編集的創造性」ワークショップ
- 16：15～16：30（15分） 休憩
- 16：30～17：30（60分） パネルディスカッション（ビジネスパーソンは、どのように社会に変化をもたらせるのか？）

※終了後、B1Fの「世界食堂」にて懇親会

\* 講師の事情により内容が変わることがありますがご了承ください。

<プログラムの概要>

	日にち	テーマ	ファシリテーター
1	2015年 12月12日	<p>・「キックオフトーク」</p> <p>鼎談 『ソーシャルイノベーションとは何か』 『社会課題解決にイノベーションが必要なのか』 『イノベーションの担い手は誰か』</p> <p>パネルディスカッション 『ビジネスパーソンはどのように社会に変化をもたらせるのか』</p> <p>・「編集的創造性」ワークショップ」</p>	<p>(private)</p> <p>谷口政秀 亀田和弘</p> <p>(public)</p> <p>内藤達也、島 裕 (NPO) 服部篤子</p> <p>鈴木崇弘</p>
2	2016年 1月16日	<p>イノベーションへの第一歩</p> <p>・「価値の共創とアウトカム」</p> <p>『どのような価値を創造するのか、アウトカムは何か、成果を考える』 『既存の成功モデルを移転できるのか』『新たなビジネスモデルが必要か』</p> <p>・「コミュニケーション戦略」</p> <p>『メッセージの考え方とは』『地元関与を促すコミュニケーションとは』 『さまざまなメディアをどう活用するのか』</p>	<p>服部篤子</p> <p>西岡佐知子</p>
3	2月13日	<p>アライアンスのリスク</p> <p>・「コラボレーションリスクとヘッジ」</p> <p>『アライアンスを進める上でどのようなリスクが生じるか』 『どうすれば力を結集してアライアンスを組むことができるのか』</p> <p>・「人間的資質を振り返る」</p> <p>『もっと人が、そして組織が変わることができないか』 『どうすれば異なる意見をまとめられるのか』『既成概念は打破できるのか』</p>	<p>岡田仁孝 中原美香</p> <p>鶴見樹里</p>
4	3月12日	<p>異なる視点からの創造</p> <p>・「イノベティブな政策形成過程」</p> <p>『プロジェクトを進めるために政策をどう活かすのか』 『行政とどのような関係を築くのか』『阻害する規制があった場合どうすればいいか。』</p> <p>・「地域ブランディングの成否」</p> <p>『単なる話題性だけではない持続可能な地域プロモーションにむけて、関係者が考えるべきポイントは何か。』</p>	<p>鈴木崇弘</p> <p>馬渡一浩</p>
5	4月16日	<p>イノベーションのプロセス</p> <p>・振り返りとアイデア創出のためのデザイン・シンキング</p>	
6	5月14日	<p>公開プレゼンテーション Social Innovation を起こそう！</p> <p>コメンテーターは後日ご案内します。</p>	

\* 最新情報はウェブ <http://www.synqa.jp/>に掲載。

## 講師陣 プロフィール（五十音順）

### 岡田 仁孝 Yoshitaka Okada 一般社団法人 DSIA 代表理事、上智大学名誉教授

「ビジネスを通しての途上国での貧困削減」が、現在の活動の中心。経産省にて「CSR-BOP ウォッチ」を開催中。DSIA の活動として東北復興支援を、米国との繋がりを作り実施。世界銀行、国連大学、ウイスコンシン大学日米欧比較研究プロジェクト等の国際的な研究活動が多い。ケンブリッジ大学(2001)、オックスフォード大学(2001)、マックス・プランク研究所(ケルン) (2008)にて客員研究員。専門は経済社会学。現在、東京国際大学国際戦略研究所教授、Center for Inclusive Business and CSR (センター長)。

### 亀田 和宏 Kazuhiro Kameda 大日本印刷株式会社 マーケティング本部 ソーシャルイノベーション研究所所長

1984 年大日本印刷入社。管理、営業、制作部門を経て 2011 年 4 月より現職。「社会が求めるものをビジネスにしていこう」ことを目指して活動中。新しい事業を構想・創造する人材を創出する仕組みを考える研究会委員（経済産業省：2011 年）、イノベーション創出若手研究人材養成評価作業部会委員（文部科学省：2013-14 年）、東北大学大学院環境科学研究科非常勤講師（2014 年）を務める。共著として「2030 年のライフスタイルが教えてくれる『心豊かな』ビジネス」（日刊工業新聞社/2013 年）がある。

### 島 裕 Hiroshi Shima 株式会社日本政策投資銀行 企業金融第 1 部 技術事業化支援センター長

1987 年に日本開発銀行（現（株）日本政策投資銀行）入行。関西支店、地方開発部、都市開発部、新産業創造部、東海支店などを通じ地域振興、技術経営のサポートに携わる。現在、技術事業化支援センター長として、企業のオープン・イノベーションを後押しするため金融機関発のフューチャーセンター（大手町イノベーション・ハブ）の推進を担当。慶應義塾大学経済学部卒業。

### 鈴木崇弘 Takahiro Suzuki 城西国際大学大学院客員教授

東京財団設立に関わり同財団研究事業部長、大阪大学特任教授・フロンティア研究機構副機構長、自民党政策研究機関「シンクタンク 2005・日本」設立に関わり同機関事務局長などを経て現職。PHP 総研客員研究員、日本政策学校共同代表、Yahoo!ニュースのオーサー等も務める。大阪駅北地区国際コンセプトコンペ優秀賞受賞。主な著訳書は『日本に「民主主義」を起業する』『シチズン・リテラシー』『アメリカに学ぶ市民が政治を動かす方法』等。関心分野は、統治システムの構築や新たな社会創出人材の育成。

### 谷口政秀 Masahide Taniguchi 株式会社イトーキ オフィス総合研究所 所長

PJ 推進、空間設計部門、商品開発部門、ネットスタイル社起業を経て現職。国内外の先進的な働き方、働く場の調査・研究から、2012 年に「make space」2013 年に「デザイン思考ファシリテーションガイドブック」出版。現在はイノベティブな働き方の啓蒙・普及の講演、ワークショップ開催からイノベティブな空間設計、ソーシャルイノベーションの推進活動を行っている。

### **鶴見樹里 Juri Tsurumi Monday 株式会社 代表取締役**

商法、著作権法及び商標法を専門とする英国弁護士としてロンドンで活躍。帰国後はデザイン&印刷会社 GRAPH で代表を勤め、知的財産戦略部や CSR 部などを立ち上げる。クリエイティブビジネスのマネージメントノウハウを『クリエイティブ・マネージメント』（誠文堂新光社）、『ブランドは根性』（日経 BP 社）などで紹介。情報管理会社で business unit director として活躍後、コーチングとコンサルティング会社の Monday を立ち上げる。現在はエグゼクティブ・コーチング、グループコーチングプログラムなどをデザインし、提供している。

### **内藤達也 (Tatsuya Naito) 国分寺市 政策部長**

1979 年國學院大学文学部卒業、同年国分寺市入職。こくぶんじ市民活動センター長、都市計画部長、都市建設部長、総務部長、都市開発部長等を経て、2012 年より現職。2006 年、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了。日本協働政策学会理事。2012~2014 年明治大学経営学部特別招聘教授。共著に「地域再生と戦略的協働」（ぎょうせい）、「ソーシャル・エンタープライズ」（丸善）、「ケースで学ぶまちづくり」（創生社）等。

### **中原 美香 Mika Nakahara N P O リスク・マネジメント・オフィス代表**

立教大学法学部法学科卒、米国 Claremont Graduate University Center for Politics and Economics 修士課程修了（国際政治専攻）。米国の N P O や国際人権団体勤務を経て、2000 年に N P O リスク・マネジメント・オフィスを設立、市民活動や社会貢献活動の「やりがい」や効果を最大限に引き出す支援を続けている。2013 年 4 月より、明治学院大学ボランティアセンターのコーディネーターもつとめる。

### **西岡佐知子 Sachiko Nishioka 株式会社プラスナコミュニケーションズ 代表**

航空会社勤務、フリーアナウンサーを経て、米国で MBA を取得。帰国後は、外資系広告代理店やコミュニケーションコンサルティング会社にて、マーケティングから広報までの様々なコミュニケーション案件の戦略策定、実行支援に携わる。2011 年、株式会社プラスナコミュニケーションズを設立。マーケティングや広報等、経営戦略としてのコミュニケーションのコンサルティングの他、メディア対応やプレゼンテーションのスキルアップを目指したトレーニングを提供している。また、一橋大学で非常勤講師を務める。

### **服部篤子 Atsuko Hattori 一般社団法人 DSIA 常任理事 CAC 社会起業家研究ネットワーク 代表**

阪神淡路大震災を契機に、非営利組織、社会起業の研究と普及に取り組み、近年は、イントラプレナー（組織内イノベーター）や社会価値評価にそのフィールドを広げ、ソーシャルインパクトの高い課題解決手法を模索している。2010 年「ソーシャルイノベーション：営利と非営利を超えて」、2012 年「未来をつくる企業内イノベーターたち」編著。立教大学大学院・明治学院大学兼任講師、国際大学 GLOCOM 客員研究員など兼務。日本 NPO 学会理事、公益財団法人日本女性学習財団理事。

## **馬渡一浩 Kazuhiro Mawatari 文京学院大学経営学部教授**

1980年慶應義塾大学商学部卒。株式会社電通を経て、2011年から現職。専門は、企業や地域のアイデンティティとブランド戦略。現在は、企業や地域のコミュニケーション戦略と文化の関わりを主な研究テーマとし、ゼミの学生たちとともに様々な企業や地域を訪ね、研究を重ねている。共著に『ブランド評価と価値創造』（刈屋武昭編著。日経広告研究所）等。日本価値創造ERM学会理事。

ゲストスピーカー：

## **檜崎達也（ならざき・たつや）住友林業株式会社資源環境本部山林部林業企画グループ・チームマネージャー**

1973年、福岡県出身。京都大学大学院農学研究科森林科学専攻修了。三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部を経て、2011年に住友林業株式会社資源環境本部に入社。京都府林業大学校特任教授、岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師、森林利用学会理事なども務める。林業用の営業支援アプリケーション「スピリット・オブ・フォレスター」が2014年度グッドデザイン賞を受賞した。趣味は、アルペンボード、エンデューロレース、100キロウォーク、激流下りなどエクストリーム系スポーツ。

関連サイト <http://webronza.asahi.com/politics/articles/2015121800003.html>

## **影山知明（かげやま・ともあき）クルミドコーヒー店主**

1973年、西国分寺生まれ。大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、独立系ベンチャーキャピタルを共同創業。総額30億円のファンドを立ち上げ、投資先とリスク/リターンを共有した事業開発に従事。2008年、空き家となった生家を建て替え、多世代型シェアハウス『マージュ西国分寺』をオープン。1階には、子どもたちのためのカフェ『クルミドコーヒー』を開業。食べログ（カフェ部門）で全国1位に。開かれた場づくりから、一人ひとりが「いきる」社会づくりに取り組む。著書に、『ゆっくり、いそげ～カフェからはじめる人を手段化しない経済～』（大和書房、2015）。

関連サイト <https://kurumed.jp/>



## 第 1 回ソーシャルビジネス進化アカデミー サマリー

開催日 2015 年 12 月 12 日（土）於イトーキ東京イノベーションセンター-SYNQA

初回は、キックオフトークセッションとして、3 部構成で実施。

第一部：鼎談『ソーシャルイノベーションとは何か』、第二部：ワークショップ『編集的創造性：社会課題の掘り出し』、第三部：パネルディスカッション『ビジネスパーソンはどのように社会に変化をもたらせるのか』。

挨拶 DSIA：

ソーシャルイノベーションを席卷することを目的とした場です。今回のテーマは、「地域におけるイノベーション」。様々な分野の方がファシリテーターとして参加しています。6 カ月に渡り、12 コマのワークショップを実施。異なる企業・セクターの方々と協働して成果を上げたいと思っています。そして参加者の皆さまには、ネットワークの場として活用していただきたい。

江戸時代には 300 を超える藩が存在し、それぞれ違った価値観で違ったライフスタイルが営まれていた。それらが日本国として一つに結びついていくその過程で異なる価値観がぶつかり合った。それこそがイノベーション。戦後の日本がやってきたこともイノベーションの繰り返しでした。しかし現在はどうか。組織の規律を取り払って、組織・セクターを超えて新しいものを作っていく。まさにそのための進化アカデミーです。

挨拶イトーキ：

この会場は、当初からショールームとしてではなくオープンイノベーションの場として作りました。本日まで参加の皆さんがここで新しいことを学んだり対話したりする中で共創していただくそのプロセスや体験が一番の成果だと思っています。アカデミー終了後交流会がございますがそちらにもぜひご参加いただき、今日一緒になった方々とこの半年間良い関係を作ってください、その後このメンバーで何か新しいことができるのではないかと期待しています。

### 【第一部鼎談】要約

#### ■ 自己紹介（印象に残ったキャリア）

N：行政のしくみが大きく変わったところは、“市民参加”“市民参画”“NPO との協働”といったそれまでやってきていない仕組みで運営すること。中でも“協働”が非常に難しかった。行政にとってパートナーシップやコラボレーションには色々な形があるが、仕組みづくりが大切。特に企業の皆さんとどういう新しい仕組み、新しい波を創り出せるのかを期待している。

T：イトーキは明治 23 年創業、今年で 125 年目の会社。小さな会社から現在に至っていますので会社自体も色々な変化を経験している。入社した頃は机や椅子、オフィス家具を中心に製造販売していました。段々と、単品ではなく空間全体のデザインをするようになり、デザイン領域が広がってきた。インターネットの時代になったとき、様々なことが起こる予感がした。

#### ■ ソーシャルイノベーションの担い手は誰か？

H：ソーシャルビジネスの上位概念ととらえている。ソーシャルビジネスが進化するとソーシャルイノベーションが起こる可能性が出てくるという考えを持っている。

行政・企業・草の根、各セクターの視点からみていきたい。「市民社会の担い手概念図（トライアングル）」の各セクター間に境界線はあるか。実際には境界線上がぼやけてきている。のではないか。中央にこれまでと役割分担の異なる領域（Multisector）があるのではないか。この部分でソーシャルイノベーションがおきるとすれば、各セクター全てがソーシャルビジネスの担い手となる。その領域で行政、企業ではそれぞれ今何が起きているのでしょうか。

N：平成の大合併では市町村の数が減り当然職員の数も減りましたが、平成の大合併以降も職員数は減り続けている。自治体の在り方が根本から変わってきた。毎年3億から5億円の規模で扶助費が上がっている。税金は上がらないが費用が上がってくる。出ていくものが増える。

T：創業当時は、文具を輸入販売していましたが、その後文房具や家具を国内で作るようになり段々製造業に変わっていった。社是があって、大好きなのが、「正しい商道に徹して悔いなき人生を送ろう」という「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」と言われる近江商人の心得と、自分がどのような人生を送りたいのかをよく考えて会社や仕事に依存しない生き方を大事にしてねというメッセージに時々立ち戻るようにしています。

会社は、マーケットが大きくなって段々と生産重視になっていき、企業が価値を創造するという風潮が出てきて、力関係も変化していったと思う。ところが今、マーケティングを

尽くしてもそれでも売れない時代。グローバル化の中でアジアを中心とした国々にポジションを取られ、いろんな努力をしているが混沌とした状況。我々は製造業からサービス業に変わってきた。生活者を起点に考えると、異なったセクターの関係性が変わってくるのではない。新しい体系で価値を共創する時代に段々向かっているのではないか。

H：どうやって新しい関係性を創っていくか、そういう研究はあります。しかし実際はなかなかうまくいかない。企業側、自治体側にとって“生活者起点”は実現可能なのか。現在やりかけていることはありますか？

N：自治体で言うともさに生活者が市民。同じ図が書けます。当然企業と同じ認識があり危うさを持っています。やりたい職員・自治体は沢山存在します。しかし実際にそれができないのは、地方自治法。条例をつくって打破したいのですが、壁になるのが、やはり個人情報保護。ここが重要なところ。しかし、安全性を担保したうえで拡大していく。今までできなかった領域に手を出して、領域を拡大していく。そうすることで地域課題を解決するツールを生み出せると考えています。

T：（価格と市場規模の図から、軸の変化を説明）機能・デザインの追求は限界にきた今の軸は「共感」。高度なマーケティングではなく、顧客が求めているものは何か、自分たちも一緒になって感じていくことが必要になっています。つまり、共創していくこと。そのあたりを企業が模索していますが、数字で測れない意味、情緒性、ストーリーですから、企業側のトップが思い切ってシフトしていくのであります。

H：一方、NPOは、“ストーリーの共感”がないと何も始まらない。企業は模索中。ということは、両者に接点があるということでしょうか。混沌としているなら、両者で一緒になれば打破できるのではないのでしょうか。

T: 大企業になると、会社それ自体が 20 世紀最大の工業製品なのではないかと思っています。トップダウンのピラミッド構造。徹底した分業体制。現在のように不確実性が高まると、今までやったことがないことが起こってきています。では、トップがピラミッドから下山して指示できるのか。当然できない。多様な人々と交わることで解を探す。この場もしかり。20 世紀の効率よかつたピラミッド型が壊れて混沌としているが実は多様な人々が話し合うプロセスや経験自体が価値を生み出すということがわかってきています。

H:まさに本アカデミーがそのようになっていくのがいい。自治体のがんじがらめのピラミッド構造はどうなっているでしょうか。

N:「公民連携 PPP」をどうやって使っていけるかですが、少しずつですが改正が行われてきている地方自治法、中でも「指定管理者制度」。これによって自治体経営が変わってきた。そして、自治行政局長名要請という形で取組みが強化された「外部委託」、これにより、「PFI」を始めとする「PPP」いわゆる公民連携が公共経営で不可欠なものとなった。次に、「市場化テスト法」。これは画期的な法律改正。最後に、「NPO との連携・協働」では、活動の原点にストーリーを持っている NPO と法律にがんじがらめの行政がどう連携することができるのか。一定の成果は出てきていますが、爆発的なイノベーションには至っていない。まだ満足できない状況です。

H:企業、自治体双方からそれぞれの課題と取り組みが出てきました。変化が出てきたという共通認識があります。しかし、「市民はソーシャルビジネスを評価しているか？」図で示すように、生活者の賛同が不十分。市民を味方にするにはどうしたらいいのでしょうか。

T:ハーバードビジネスレビューの図にあるように、一つの組織の中で共通言語を持った人たちが集まると、平均的なアウトプット。しかしグループに多様性が増えるとアベレージが減ってきてブレイクスルーのものも増える。そういう多様な方々が自然発生的に集まった中から得た気づきを形作っていくことが大事。企業でも、機能中心でデザインを加えるだけでは突破は見いだせない。突破口は、自ら外へ出ていくこと。

弊社は、明治 23 年の創業時、製造業で何かを作って売るということだけでなく、世の中の人困っていること、社会課題を解決していこうというミッションがあった。困りごと、課題を解決することにビジネスの原点がある。企業は製品コストにばかりフォーカスし、社会的価値を見失っている。今こそ、多様性の中でイノベーションを起こす時。そこにやっと気づき始めた。

N; 行政に対する市民の要望が非常に多様化しているという現状がある。5 年以上前、社会起業を仕事にするという本を書きましたが、今はもっと進んでいる。どう風な手段でやるのかというより、本当に一緒に汗をかける信頼関係をどう築いていくのか、そういう仕組みを考える時なのだろうと思います。これまで大企業と中央政府がけん引してきたが、今日のお話を伺うと、これからは個人一人一人が行っていくことを契機に大きな波となる気がしている。

H 鼎談では、各セクターで問題意識を持って動いていらっしゃるお二人のスピーカーの目線を感じ取ることができた。これからマルチセクターでどうやっていけばいいのか、疑問も感じ取ったと思いますが、その出発点にたつのが鼎談の目的でした。その解を、進化アカデミーを通じて一步一步進めていきたい。対話を続けることが変化をもたらせていくと信じて。

本日は有難うございました。